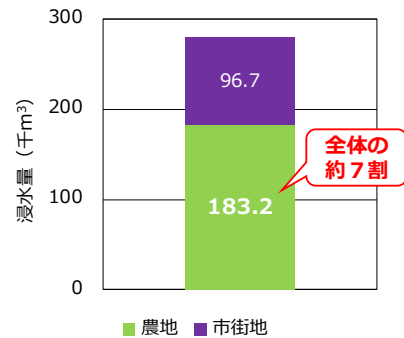


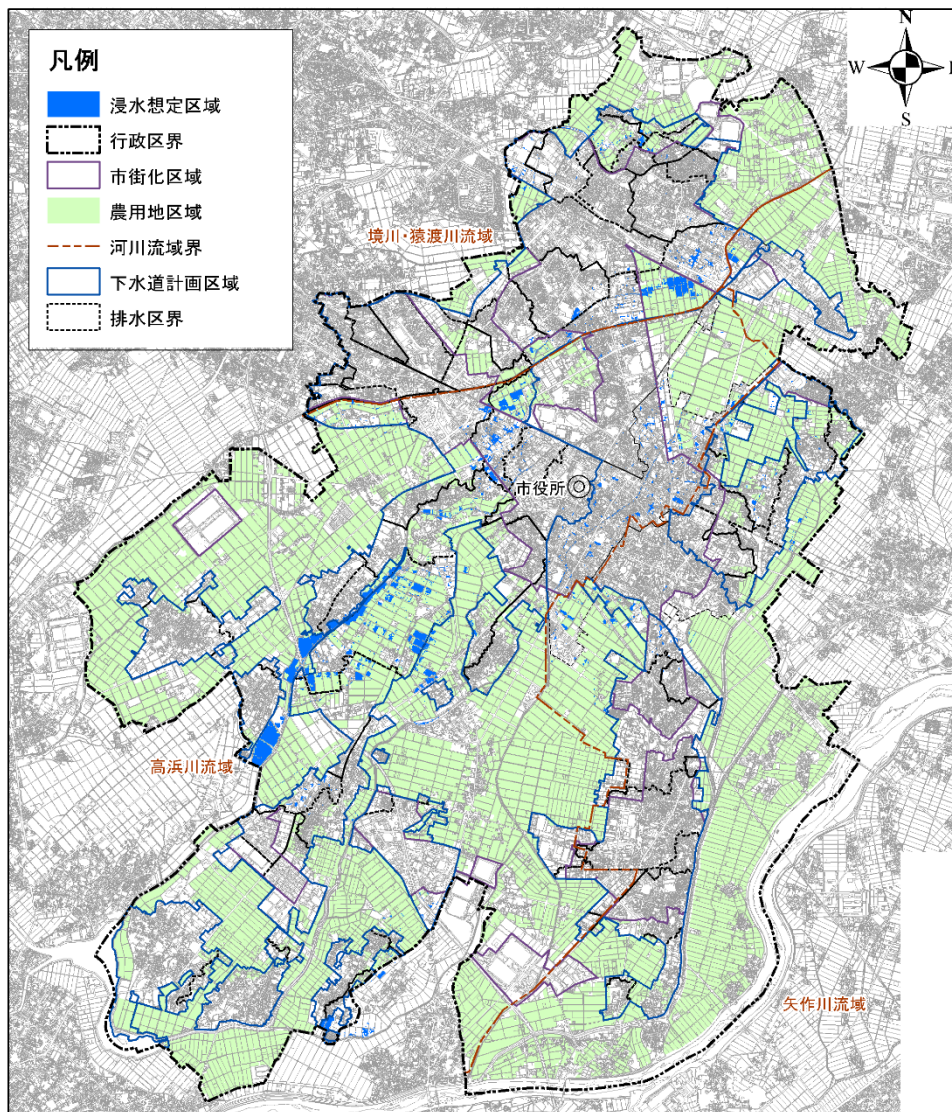
2-3 浸水リスクの検証から見えてきた課題

① 平成20年8月末豪雨と同等の集中豪雨が再来したら、どこが浸水する？

- 今、平成20年8月末豪雨（1時間あたり最大雨量77mm、総雨量226mm）と同等の集中豪雨が降った場合、「雨水管渠、ポンプ施設、雨水貯留施設で処理し切れない水が低い土地に流出する」という簡易な浸水シミュレーションを行ったところ、浸水域の大部分は農地であることが分かりました。
- 今後、このような農地が開発されると、周辺の市街地に雨水が流出し、新たな浸水被害が発生する恐れがあるため、浸水リスクを抑制するためには「農地の保全」が極めて重要です。また、現状で市街地の浸水域は限定的ですが、まだ60～70戸の家屋浸水が発生する恐れがあるため、今後も市街地の浸水対策を継続する必要があります。



農地と市街地の浸水量



② 市民の生命・財産や都市機能に与える影響が大きい地域はどこ？

- 行政の限られた財源で効率的かつ効果的な浸水対策を行うためには、浸水した時に市民の生命・財産や都市機能に与える影響が大きい（浸水リスクの高い）地域を把握する必要があります。
- 最新の知見から、3つの指標（災害の規模、土地の浸水しやすさ、脆弱性）により浸水リスクを評価したところ、市役所に近い「追田排水区」、「勢井前第一排水区」、「大山田第一排水区」の浸水リスクが高いことが分かりました。今後は、これらの地区の浸水対策を重点的に実施していく必要があります。

浸水リスクの指標

①災害の規模 (Hazard)

浸水被害の頻度や大きさ

②土地の浸水しやすさ (Exposure)

想定される浸水面積

③脆弱性 (Vulnerability)

人口、資産集積度、交通拠点施設（駅）、主要幹線道路アンダーパス、防災関連施設、要配慮者利用施設

